

# INTERVIEW



前主将・FW  
須藤 和輝 君  
(3年、山目中出身)

王者を相手に、チーム一丸となって全身全霊を尽くして戦った。負けはしたが、胸を張りたい。地域との絆が深い遠高サッカー部での3年間は自分の宝だ。今後の人生の糧にしたい。



DF  
小水内 佳紘 君  
(3年、遠野中出身)

相当準備したが、それでも東福岡は強かった。後輩たちには、「止める、蹴る」の基本に立ち返り、全国を意識した練習に臨んでもらいたい。そうすれば高い壁も越えられるはずだ。



現主将・MF  
千田 夏寅 君  
(2年、ヴェルディ岩手出身)

大会王者の強さを肌で感じ、良い刺激になった。今回出場した2年生は6人。悔しさを忘れず、全国での経験を日々の練習に反映させていきたい。チーム力に磨きをかけ、次こそ勝つ。



1\_気合いが入るスターティングメンバー 2\_堅い守備の間隙をぬってMF岩淵弘人(3年)が切り込む 3・4\_遠野の守備陣は、両サイドをえぐる強力な攻撃に体を張って耐えた 5\_円陣を組み気合いを入れるイレブン 6\_ロングシュートを放つFW須藤和輝(3年)。惜しくも入らなかった 7\_遠野の守護神・GK菊地将大(2年)は好セーブを連発 8・9・10\_歯を食いしばってボールを追いつけた 11\_ベンチ入りできず応援に回った部員も、心を一つに戦った



11\_ベンチ入りできず応援に回った部員も、心を一つに戦った



10\_歯を食いしばってボールを追いつけた

最後まで、必死にボールを追った。



## 第94回全国高校サッカー選手権ダイジェスト

# 大会優勝校の東福岡を相手に死力尽くした遠野イレブン

3大会連続出場を果たした夢の舞台。遠野は、高総体と選手権の2冠を達成した福岡県代表・東福岡と初戦で激突。最後まで諦めない全員サッカーで死力を尽くすも、0対3で敗れた。

# SOCCER DIJEST

94th ALL JAPAN HIGH SCHOOL SOCCER TOURNAMENT "TONO vs HIGASHIFUKUOKA"

## 夢

の舞台に3年連続25回目の出場を果たした遠野イレブンは、最後まで走って、走って、走り続けた。

第94回全国高校サッカー選手権大会は昨年12月30日から1月11日までの7日間の日程で行われ、埼玉スタジアム2002などで熱戦が繰り広げられた。同校は31日、千葉県のフクダ電子アリーナで、高総体と本大会の全国2冠を達成した福岡県代表の東福岡と初戦で激突。王者を相手に持てるすべての力を出し切ったが、0対3で敗れ、県勢8年ぶりの初戦突破はかなわなかった。

遠野の戦略は明快だった。堅守で東福岡の強力な攻撃を耐え忍び、カウンター攻撃で少ないチャンスをもにしようというもの。遠野伝統のスタイルだ。前半はDF小水内佳紘(遠野中出身、3年)を中心に5バックを採用。両サイドをえぐる多彩な攻撃に、体を張って守った。しかし、前半12分、相手の精度の高いコーナーキックから、先制を許してしまう。その後、FWで主将の須藤和輝(3年)がロングシュートを放つなど、惜しい場面もあったが、0対1のまま折り返す。

後半は、攻撃に打って出るべく、県大会決勝2得点のFW佐々木琢光(2年)らを投入。相手ゴール前に何度も攻め入るが、高さのある相手の守りに阻まれ、なかなかシュートまで持ち込めなかった。後半4分にコーナーキックから追加点を許し、東福岡のペースに。GK菊地将大(2年)が好セーブを連発するなど、粘り強い守備を見せたが、10分には決定的な3点目を決められた。体格差、個人技ともに勝る相手に、遠野イレブンは必死に食らいつき、最後まで必死にボールを追ったが、無情にもそのまま終了のホイッスルは鳴った。

決して諦めず、夢の舞台を全力で走り切った遠野イレブンは、サポーターからは温かい拍手が送られた。

優勝校との差は、たった3点だ。これは、決して越えられない壁ではない。3点差を埋めることができた時、遠野は全国の頂点に立つ。先輩の涙を見た後輩たちは、この悔しさをバネに、一回りも二回りも大きくなって、夢の舞台に帰って来ることだろう。遠高サッカー部の挑戦は、まだまだ終わらない。